

序

今回で第34回を数える冠不全研究会は、「リスクベネフィットに着目した最新の心房細動診療」をテーマとして掲げさせて頂いた。本会が不整脈をテーマとするのは第29回（2008年）の「最新の不整脈診療のポイント」以来である。本会は名称の通り、虚血性心疾患を中心とした研究会であるが、開催に先立って行われたアンケートにおいて、循環器診療に携わる多くの実地医家の先生方の、心房細動診療に対する関心の深さが伺え、今回のテーマを提起したものとして安堵している。

以前に本会で心房細動をテーマに取り上げた2008年度は、「心房細動治療（薬物）ガイドライン」が改訂となった年である。その後の5年間で、心房細動治療をめぐる大きな変化として新規抗凝固薬の上市がある。それらとこれまで用いられてきたワルファリンとをどのように使い分けるのかは、今日の心房細動診療の大きな課題であろう。また、心房細動の根治療法としてのカテーテルアブレーションもこの間に大きく進歩してきている。

すなわち、心房細動の治療選択肢が大きく広がったのが今日の状況と言え、それら選択肢の中からいかに患者の「リスクとベネフィット」を勘案し治療法を選択するののかについての、「最新」の情報をお届けしたい、というのが本会の趣旨である。

例年のプログラム通り、本研究会が行った2つの調査の集計結果について、石川辰雄先生、長村好章先生からご報告いただき、今回のテーマに沿った症例の呈示を小林利行先生より頂戴した後、薬物療法について井上博先生（富山大学）から、抗凝固療法について高橋尚彦先生（大分大学）から、そしてカテーテルアブレーションについて村川裕二先生（帝京大学）から、それぞれご講演いただいた。

プログラムの最後のパネルディスカッションでも、フロアの先生方からご質問・ご意見を多数頂戴し、心房細動診療をめぐる多くの先生方が苦慮されていることがあらためて実感された。本講演録が、日常診療において心房細動の治療選択と管理に悩まれている先生方のお役に、少しでも立つことができれば幸甚である。

第34回 冠不全研究会 座長
国際医療福祉大学三田病院／院長
小川 聡